

第37期（令和4年度）決算等の概要

当期（令和4年度）においては、新型コロナウイルス感染症や物価の上昇などの影響が続きましたが、社会経済活動の回復に向けた動きもあり、輸送人員はコロナ禍前の水準には届かないものの、一定の改善がみられました。

このような状況下で、安全・安定輸送の確保を最優先に、利便性の高い輸送サービスの提供と、関係機関と連携した取組みによるご利用促進など収支の改善に取り組んでまいりました。

鉄道輸送については、全線において概ね1時間あたり4本の列車を運転し、特に朝の通勤時間帯の三河豊田駅～新豊田駅間ではシャトル列車を運転するなど、感染症流行の影響によるお客様の減少が続くなか、列車内での「密」の回避と利便性確保のため、基本的に列車運転本数を維持して輸送サービスを提供しました。また、JRのダイヤ改正に合わせて岡崎駅での乗り継ぎを考慮した時刻修正を行いました。

収入確保としては、沿線で開催されるイベント等をホームページ等でPRしたほか、観光マップの作成及び配布、土日などを対象にした1日フリー乗車券・ご高齢者向けのフリー乗車券の定期的発売等、新規需要獲得のための取組を実施しました。また県や沿線市と連携し、ジブリパーク開園や大河ドラマの放映に関連する企画乗車券の発売やラッピング車両の運行を行い鉄道利用の促進を図りました。このほか、愛知環状鉄道連絡協議会との共催で愛知県内の小学生を対象に当社をテーマとした絵画を募集し作品を展示する列車を運行したほか、貸切列車の運行と車両撮影会をセットにしたイベントの開催、SNSを活用した情報の発信により、地域の方々に当社への理解と愛着を深めて頂く取組を行いました。さらに、安全・安定輸送の確保を大前提に、設備更新及び修繕において、施工時期や施工数量の精査、効率的な施工を徹底するなど、経費削減に取り組みました。

こうした事業運営の結果、輸送人員は1,486万人（対前期比108.6%、対令和元年度比78.9%）、運輸収入は33億6千4百万円（対前期比111.1%、対令和元年度比77.8%）となりました。営業収益については、38億6千1百万円、営業費用は44億9千7百万円、営業損失は6億3千5百万円で経常損失は6億6百万円となりました。

また、当期は愛知県から燃油価格高騰対策支援金、国・岡崎市・豊田市からは車両ラッピングに対する補助金等の受入があり、これらの結果、当期の純損失は、5億1千6百万円となりました。